

欧州景気概況(2021年1月)

調査部 副主任研究員 土田 陽介

【目次】

I. 景気概況

【ユーロ圏】景気は悪化している	p.1
【英国】景気は悪化している	p.3
【ロシア】景気は悪化している	p.5

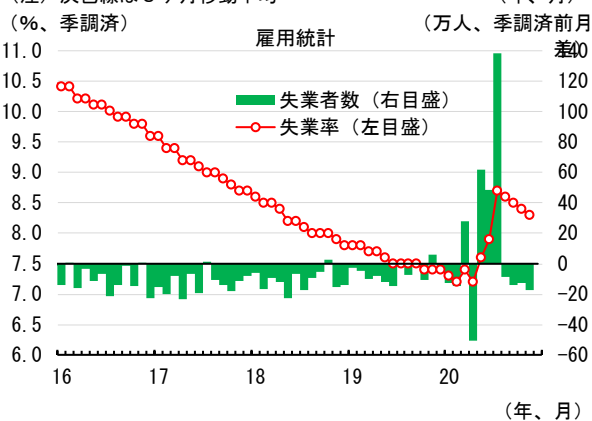
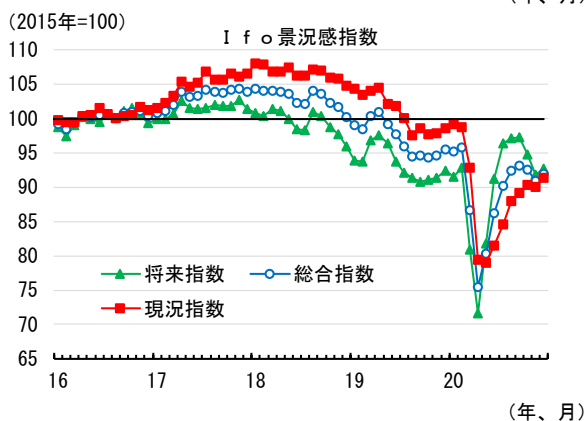
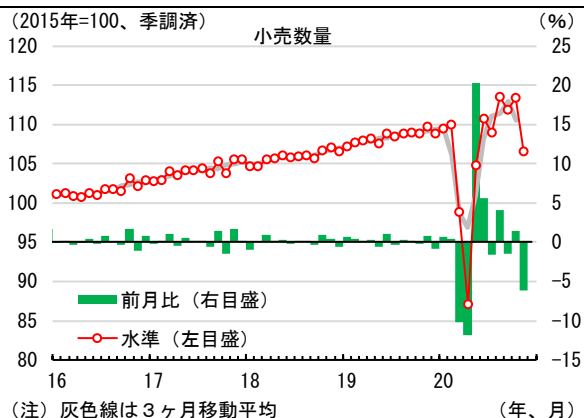
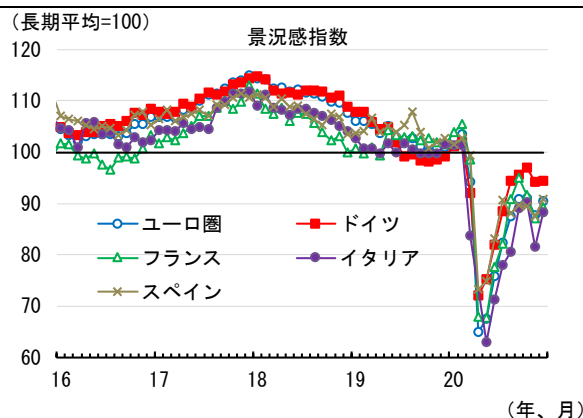
II. 今月のトピック

英国で懸念される「コロナ疲れ」の深刻化	p.7
---------------------------	-----

I. 景気概況

【ユーロ圏】～景気は悪化している

- ユーロ圏景気は悪化している。最新2020年12月の景況感指数は90.4と、11月（87.7）から上昇した。国別には、イタリアやスペインといった新型コロナウイルスの感染拡大が相対的に落ち着いた国で改善が進んだ。しかし年末にかけて英国で同ウイルスの変異株が確認され、大陸側でも流行が懸念されている。またドイツやフランスなどは行動制限の延長や強化を実施しているため、ユーロ圏の成長率は10～12月期に続いて1～3月期もマイナスになる可能性が高まっている。
- 企業部門では、ドイツの最新11月の鉱工業生産が前月比+0.9%と10月（同+3.4%）から伸びは鈍化したものの、7ヶ月連続で増加した。同月の製造業受注も同+2.3%と堅調な外需を反映して回復が続いた。12月のI f o景況感指数が92.1と前月（90.9）から上昇するなど、製造業の景気に対する見方は楽観を強めている。反面で、ユーロ圏の企業部門の景況感指数は12月もサービス業や小売業といった内需依存度の高い非製造業で悪化が続いており、対照的な結果となっている。
- 家計部門では、11月の小売数量が前月比-6.1%と4月以来の減少減となった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い行動制限が強化されたことが主な理由と考えられる。同月の新車販売台数も前月比-7.8%の年率987万台と下振れした。直近11月の雇用統計では、失業率が8.3%と4ヶ月連続で低下し、失業者数も前月比17.2万人減とマイナスが続くなど雇用情勢は緩やかに改善、消費を下支えしている。



(出所) 欧州委員会ECFIN、I f o研究所、欧州連合統計局(ユーロスタット)

○ユーロ圏の主要経済指標

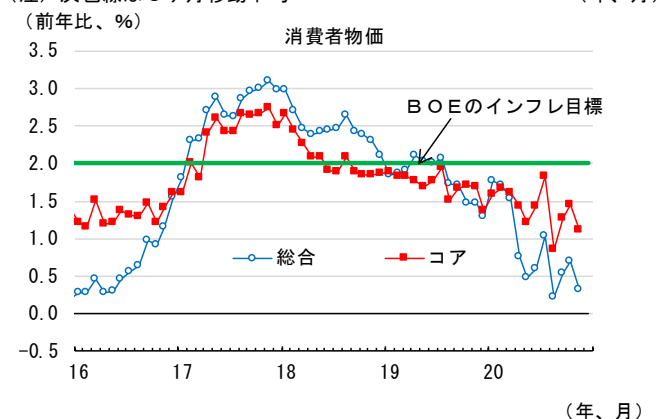
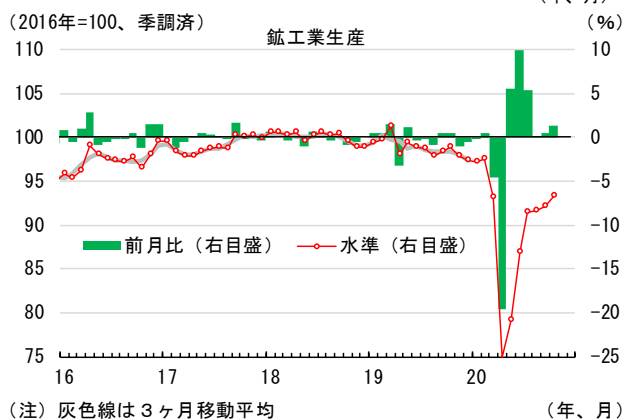
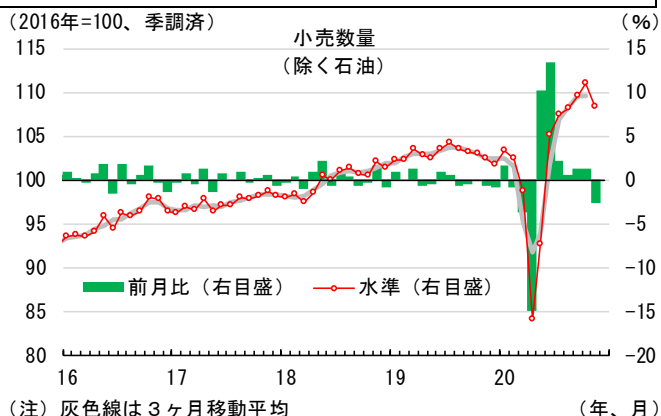
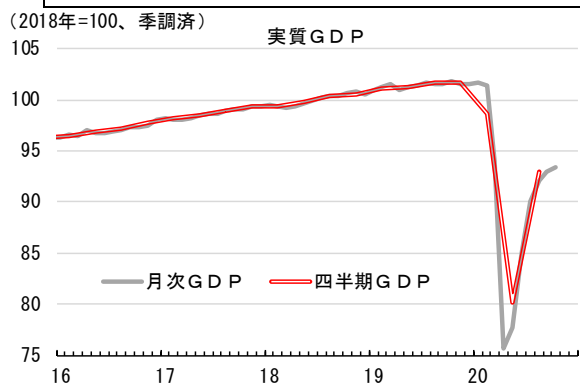
		2018	2019	2020	20/II	20/III	20/IV	20/8	20/9	20/10	20/11	20/12	
全体	実質GDP成長率（前期比、%）*	1.9	1.3	-	-11.7	12.5	-	-	-	-	-	-	
	個人消費（寄与度、%ポイント）	0.8	0.7	-	-6.6	7.4	-	-	-	-	-	-	
	総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	0.8	0.7	-	-3.6	2.8	-	-	-	-	-	-	
	景況感指数（長期平均=100）	111.5	103.1	86.5	69.4	86.9	89.7	87.5	90.9	91.1	87.7	90.4	
	ドイツ	111.8	102.2	90.7	76.4	92.7	95.2	94.3	95.5	97.0	94.2	94.3	
	フランス	106.0	101.9	88.1	71.0	89.3	89.3	90.8	94.9	91.7	87.1	89.2	
	イタリア	107.6	100.7	-	-	82.5	86.7	80.6	89.0	90.2	81.5	88.3	
	スペイン	108.0	104.1	89.3	77.1	89.5	89.3	88.1	89.7	89.5	87.5	90.8	
	景気	鉱工業生産（前期比、%）*	0.7	-1.3	-	-15.7	16.5	-	0.5	0.1	2.1	-	-
		うち製造業（前期比、%）*	1.0	-1.3	-	-16.9	17.9	-	0.3	0.1	1.9	-	-
製造業受注（前期比、%）*		3.4	-3.3	-	-23.8	23.0	-	2.3	2.9	3.4	-	-	
うちコア（前期比、%）*		2.3	-4.3	-	-21.1	19.8	-	4.0	3.2	2.3	-	-	
設備稼働率（%）		83.7	82.2	74.7	66.7	73.0	78.1	-	-	-	-	-	
製造業景況感指数（平均=-4.3）		6.7	-5.1	-14.4	-27.2	-13.5	-8.8	-12.8	-11.4	-9.2	-10.1	-7.2	
サービス業景況感指数（平均=6.4）		15.2	10.7	-16.6	-39.2	-18.2	-15.5	-17.2	-11.2	-12.1	-17.1	-17.4	
小売業景況感（平均=-6.7）		1.3	-0.4	-12.9	-26.4	-11.4	-10.9	-10.5	-8.6	-6.9	-12.7	-13.1	
建設支出（前期比、%）*		1.4	1.8	-	-10.8	13.9	-	4.0	-2.7	0.5	-	-	
建設業景況感（平均=-12.6）		7.0	6.4	-7.7	-15.0	-10.9	-8.5	-11.8	-9.5	-8.3	-9.3	-7.9	
家計部門	小売数量（前期比、%）*	1.6	2.4	-	-4.9	10.5	-	4.1	-1.5	1.4	-6.1	-	
	新車販売台数（年率、万台、季調済）	1,109	1,130	-	537	1,031	-	1,025	1,035	1,070	987	-	
	消費者信頼感（平均=-11.2）	-4.9	-7.1	-14.4	-18.5	-14.5	-15.7	-14.7	-13.9	-15.5	-17.6	-13.9	
	住宅価格（前年比、%）	4.7	4.3	-	5.0	-	-	-	-	-	-	-	
政府部門	財政収支（対GDP比、%）	-0.5	-0.6	-	-3.7	-	-	-	-	-	-	-	
	公的債務残高（対GDP比、%）	85.8	84.0	-	95.1	-	-	-	-	-	-	-	
国際収支	経常収支（10億ユーロ）	336.9	279.6	-	43.3	62.8	-	20.9	25.2	26.6	-	-	
	貿易収支（10億ユーロ）	190.5	221.0	-	30.8	65.6	-	13.9	24.5	30.0	-	-	
	輸出（前年比、%）	4.3	2.9	-	-23.4	-8.9	-	-12.6	-3.5	-9.0	-	-	
	輸入（前年比、%）	7.2	1.8	-	-21.4	-11.7	-	-13.6	-7.3	-11.7	-	-	
雇用賃金	失業率（%、季調済）	8.2	7.6	-	7.6	8.6	-	8.6	8.5	8.4	8.3	-	
	失業者数（前期差、万人、季調済）	-132.0	-65.3	-	59.4	115.9	-	-8.4	-13.9	-12.9	-17.2	-	
	名目賃金・給与（前年比、%）	2.4	2.6	2.5	4.6	2.2	0.0	-	-	-	-	-	
物価	消費者物価（前年比、%）	1.8	1.2	0.3	0.2	0.0	-0.3	-0.2	-0.3	-0.3	-0.3	-0.3	
	同コア（前年比、%）	1.0	1.1	0.7	0.9	0.6	0.2	0.4	0.2	0.2	0.2	0.2	
	生産者物価（前年比、%）	3.4	0.6	-	-4.6	-2.8	-	-2.7	-2.5	-2.2	-2.0	-	
金融	M3（前年比、%）	3.9	5.6	-	8.9	9.3	-	8.7	9.7	10.2	10.1	-	
	銀行貸出（前年比、%）	2.9	3.1	-	4.2	3.6	-	3.5	3.6	3.4	3.5	-	
	政策金利（年利、%）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	EURIBOR3ヶ月物（年利、%）	-0.32	-0.36	-0.43	-0.33	-0.48	-0.53	-0.48	-0.50	-0.52	-0.53	-0.55	
	ドイツ10年債金利（年利、%）	0.46	-0.21	-0.48	-0.45	-0.48	-0.58	-0.48	-0.49	-0.57	-0.58	-0.58	
	Eurostoxx50（期中値、91/12/31=1,000）	3,383	3,436	3,273	2,995	3,292	3,368	3,298	3,261	3,180	3,392	3,531	
	ユーロ/円（期中値）	130.0	122.0	121.9	118.6	124.8	124.5	126.5	123.8	122.4	124.8	126.5	
	ユーロ/ドル（期中値）	1.18	1.12	1.15	1.11	1.18	1.20	1.19	1.17	1.17	1.20	1.23	

（注）*のついた前期比は年次データが前年比、四半期データが季調済前期比、月次データが季調済前月比を意味している。

（出所）欧州連合統計局（Eurostat）、欧州委員会ECFIN、欧州中央銀行（ECB）などの資料から作成。

【英国】～景気は悪化している

- 英国景気は悪化している。最新2020年10月の月次実質GDPは前月比+0.4%と伸び率が4ヶ月連続で鈍化した。英国では年末から毒性の強い新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るっており、年明けには全土で三度目となる都市封鎖（ロックダウン）を余儀なくされた。そのため年明け以降の景気は再び厳しさを増すと予想される。
- 企業部門では、10月の鉱工業生産が前月比+1.3%と伸びは2ヶ月連続で加速した。世界的な景気の回復が生産の増加につながったと考えられる。またEU（欧州連合）との間で締結した「移行期間」が年内で終了するに当たって、一種の駆け込み生産が生じたものと判断される。一方、10月のサービス業生産は前月比+0.2%と4ヶ月連続で増勢が鈍化した。新型コロナウイルスの感染対策の影響を受けやすい宿泊・飲食関連の不調が目立った。
- 家計部門では、11月の小売数量（除く石油）が前月比-2.5%と4月以来となる減少に転じた。また同月の新車販売台数も前年比-27.4%と、マイナス幅を大きく拡大させた。行動制限の強化が消費を下押ししたと考えられる。加えて英国では雇用情勢も悪化しており、10月の失業率（3ヶ月移動平均）は4.9%と上昇が続いた。一方で物価はディスインフレが加速しており、11月の消費者物価は前年比+0.3%と前月（同+0.7%）から上昇率が低下した。弱い物価が所得を実質面から下支えしていると判断される。
- 英国は2020年12月末でEUとの間で締結した「移行期間」を打ち切った。年明けからは新たにEUとの間で締結した通商協定に基づく貿易取引が行われる。



(出所) 英国統計局 (ONS)、ネーションワイド

○英国の主要経済指標

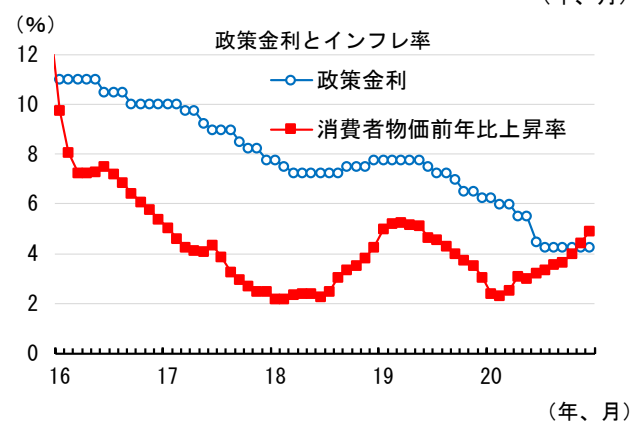
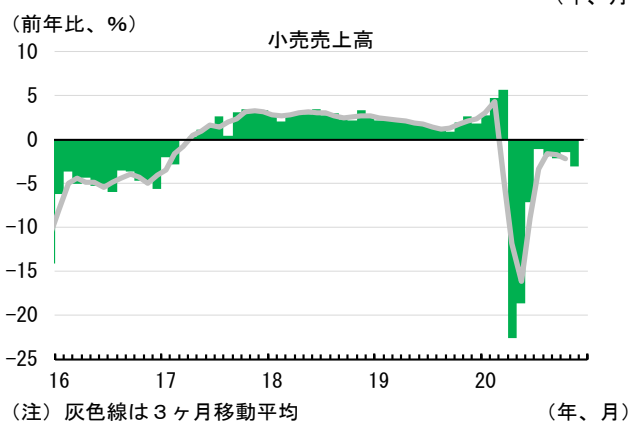
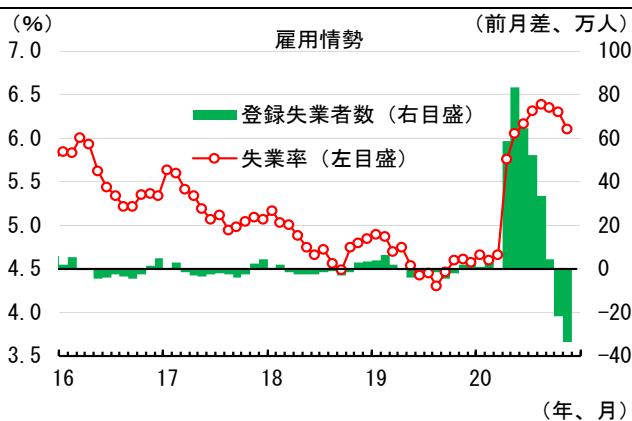
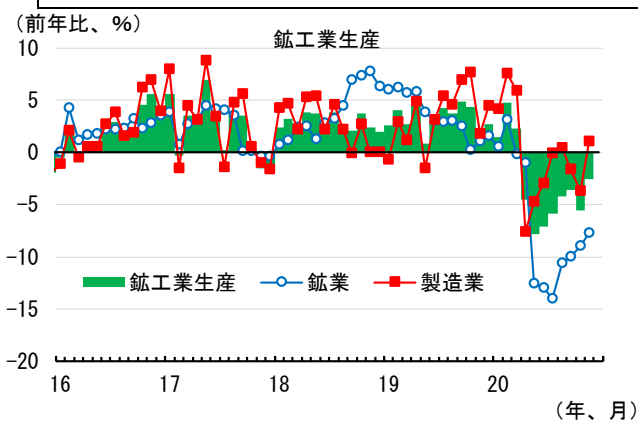
		2018	2019	2020	20/Ⅱ	20/Ⅲ	20/Ⅳ	20/8	20/9	20/10	20/11	20/12	
景気	全体	実質GDP成長率（前期比、%）＊	1.3	1.4	-	-18.8	16.0	-	-	-	-	-	-
		個人消費（寄与度、%ポイント）	0.8	0.7	-	-13.7	11.6	-	-	-	-	-	-
		総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	0.1	0.3	-	-4.1	3.1	-	-	-	-	-	-
		景況感指数（長期平均=100）	106.8	93.9	79.0	63.1	77.9	82.4	75.1	83.0	84.6	78.4	84.3
	企業部門	鉱工業生産（前期比、%）＊	-0.2	-0.3	-	-16.3	14.3	-	0.2	0.4	1.3	-	-
		うち製造業（前期比、%）＊	-0.3	-0.5	-	-21.1	18.7	-	0.9	0.1	1.8	-	-
		サービス業生産（前期比、%）＊	0.5	0.3	-	-19.3	14.2	-	2.3	1.1	0.2	-	-
		設備稼働率（%）	81.7	80.6	68.2	55.1	64.5	73.9	-	-	-	-	-
		設備投資（前期比、%）＊	-0.9	0.7	-	-25.4	9.4	-	-	-	-	-	-
		製造業景況感指数（平均=-6.7）	5.8	-11.0	-25.2	-42.2	-24.8	-16.0	-30.7	-21.5	-7.2	-24.5	-16.4
		サービス業景況感指数（平均=-1）	3.2	-13.0	-39.5	-63.3	-45.5	-43.0	-45.0	-36.7	-49.5	-40.0	-39.4
		小売業景況感（平均=0.9）	-6.8	-9.9	-16.6	-22.5	-17.0	-19.7	-16.6	-17.9	-20.4	-22.6	-16.2
		建設支出（前期比、%）＊	0.0	0.1	0.8	-35.8	41.7	0.0	3.8	2.9	1.0	-	-
		建設業景況感（平均=-14.6）	-1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	家計部門	小売数量（前期比、%）＊	0.7	0.3	-	-10.7	18.4	-	0.9	1.2	1.3	-3.8	-
		除く石油（前期比、%）＊	0.7	0.3	-	-7.5	15.3	-	0.7	1.4	1.4	-2.5	-
		新車販売台数（前年比、%）	-1.8	-2.2	-	-73.7	0.3	-	-5.8	-4.4	-1.6	-27.4	-
		消費者信頼感指数（平均=-8.8）	-6.8	-9.9	-16.6	-22.5	-17.0	-19.7	-16.6	-17.9	-20.4	-22.6	-16.2
	住宅部門	イングランド住宅着工件数（年率、万戸、季調済）	16.8	15.1	-	6.4	-	-	-	-	-	-	-
ネーションワイド住宅価格（前年比、%）		2.1	0.6	3.5	1.8	3.4	6.5	3.7	5.0	5.8	6.5	7.3	
政府部門	財政収支（10億ポンド）	4.9	5.8	-	-106.0	-55.5	-	-19.3	-19.5	-17.8	-27.1	-	
	公的純債務残高（対GDP比、%）	81.3	84.2	-	94.2	99.3	-	97.4	99.3	99.2	99.5	-	
国際収支	経常収支（10億ポンド）	-78.9	-68.6	-	-11.9	-15.7	-	-	-	-	-	-	
	貿易収支（10億ポンド）	-25.5	-30.5	-	16.9	5.1	-	2.9	0.6	-1.7	-	-	
	輸出（前年比、%）	6.2	4.4	-	-16.7	-17.0	-	-16.6	-13.8	-18.1	-	-	
	輸入（前年比、%）	5.3	5.2	-	-30.0	-21.5	-	-23.1	-19.6	-19.9	-	-	
雇用賃金	失業率（%、季調済、3ヶ月平均）	4.1	3.8	-	4.1	4.8	-	4.5	4.8	4.9	-	-	
	雇用者数（前期差、万人、3ヶ月平均）	44.4	33.6	-	-33.5	-16.4	-	-7.5	-8.4	1.5	-	-	
	名目週間平均賃金（前年比、%）	2.9	3.4	-	-1.3	1.4	-	1.9	2.5	3.5	-	-	
物価	消費者物価（前年比、%）	2.5	1.8	-	0.6	0.6	-	0.2	0.5	0.7	0.3	-	
	同コア（前年比、%）	2.1	1.7	-	1.4	1.3	-	0.9	1.3	1.5	1.1	-	
	生産者投入物価（前年比、%）	7.3	0.6	-	-9.2	-5.0	-	-5.6	-3.7	-	-	-	
	生産者産出物価（前年比、%）	2.9	1.6	-	-0.9	-0.9	-	-0.9	-0.9	-	-	-	
金融	M3（前年比、%）	3.5	1.2	-	9.7	10.6	-	9.7	11.1	11.7	11.0	-	
	国内向け銀行貸出（前年比、%）	3.8	3.8	-	7.6	5.0	-	4.1	5.0	3.8	4.2	-	
	政策金利（年利、%）	0.75	0.75	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	
	LIBOR3ヶ月物（年利、%）	0.72	0.81	0.29	0.39	0.08	0.04	0.07	0.06	0.05	0.05	0.03	
	10年債平均金利（年利、%）	1.47	0.90	0.34	0.26	0.22	0.31	0.25	0.25	0.28	0.36	0.30	
	FT100指数（期中値、91/12/31=1,000）	7,357	7,278	6,276	5,977	6,058	6,198	6,074	5,933	5,851	6,223	6,519	
	ポンド/円（期中値）	147.4	139.3	137.1	133.6	137.2	138.0	139.2	136.8	136.6	137.9	139.4	
	ドル/ポンド（期中値）	1.34	1.28	1.28	1.24	1.29	1.32	1.31	1.30	1.30	1.32	1.34	

（注）＊のついた前期比は年次データが前年比、四半期データが季調済前期比、月次データが季調済前月比を意味している。

（出所）英国統計局（ONS）、欧州委員会ECFIN、イングランド銀行（BOE）などの資料から作成。

【ロシア】～景気は悪化している

- ・ ロシア景気は悪化している。
- ・ 企業部門では、11月の鉱工業生産が前年比-2.6%と、前月（同-5.5%）からマイナス幅が縮小した。うち製造業が同+1.1%と3ヶ月ぶりに前年水準を上回り、回復が先行している。一方で鉱業は同-7.7%と、4ヶ月連続でマイナス幅を縮小させたものの、前年割れが定着している。石油輸出国機構（OPEC）諸国との間で原油の減産協定を締結していることが、鉱業の回復の遅れにつながっている。
- ・ 家計部門では、11月の小売売上が前年比-3.1%と、前月（同-1.4%）からマイナス幅を再び拡大させた。食品売上が同-4.3%と前月（同-2.6%）からマイナス幅を拡大させたほか、非食品売上也同-1.7%と2ヶ月ぶりに前年割れに転じた。新型コロナウイルスの感染拡大を受けてロシアでも11月以降は行動制限が強化されており、店舗での消費が悪化を余儀なくされている。一方、11月の失業率は6.1%と3ヶ月連続で低下、登録失業者数もわずかに減少するなど、雇用は緩慢ではあるが改善している。
- ・ 物価の動向を確認すると、12月の消費者物価は前年比+4.9%と7ヶ月連続で伸び幅が拡大した。内需は弱いものの、通貨ルーブルの低迷に伴う輸入インフレ圧力が強く、インフレの加速につながっている。しかし足元のルーブルの対ドル相場は、原油価格の回復や米国発のドル安の流れを受けて持ち直している。そのためロシア中銀は12月の会合でも、政策金利を既往の4.25%で据え置いた。



（注）灰色線は3ヶ月移動平均
（出所）ロシア連邦統計局、ロシア中央銀行

○ロシアの主要経済指標

		2018	2019	2020	20/Ⅱ	20/Ⅲ	20/Ⅳ	20/8	20/9	20/10	20/11	20/12	
景気	全体	実質GDP（前年比、%）	2.8	2.0	-	-8.0	-3.4	-	-	-	-	-	
		個人消費（寄与度、%ポイント）	4.3	3.2	-	-12.3	-4.6	-	-	-	-	-	
		総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	1.3	2.4	-	-2.4	-1.3	-	-	-	-	-	
	企業部門	鉱工業生産（前年比、%）	2.9	3.3	-	-6.5	-4.5	-	-4.2	-3.6	-5.5	-2.6	-
		鉱業（前年比、%）	3.9	3.5	-	-8.8	-11.5	-	-10.6	-10.0	-8.9	-7.7	-
		製造業（前年比、%）	2.8	3.4	-	-5.1	-0.4	-	0.5	-1.6	-3.7	1.1	-
		電気ガス水道（前年比、%）	1.4	-0.6	-	-2.8	-1.9	-	-2.2	-2.4	-2.9	-2.8	-
		ウラル産原油価格（ドル/バレル）	69.8	63.7	41.6	30.4	43.1	44.4	44.5	40.9	40.5	43.3	49.4
		鉱業信頼感指数（ポイント）	0.8	-0.3	-3.6	-5.0	-2.7	-3.7	-2.0	-3.0	-3.0	-4.0	-4.0
		製造業信頼感指数（ポイント）	-3.4	-2.4	-5.2	-7.3	-5.0	-6.0	-5.0	-5.0	-5.0	-6.0	-7.0
		電気ガス水道信頼感指数（ポイント）	-1.0	-3.0	-2.4	-9.3	-0.7	4.7	-1.0	3.0	5.0	6.0	3.0
		建設支出（前年比、%）	6.7	0.3	-	-1.8	-0.3	-	-0.6	-0.1	-0.1	0.0	-
		ビル竣工件数（前年比、%）	19.7	48.7	-	-17.0	19.5	-	-	-	-	-	-
	建設業景況感指数（ポイント）	-22.3	-20.0	-20.3	-21.0	-22.0	-23.0	-	-	-	-	-	
	家計部門	小売売上高（前年比、%）	2.8	1.9	-	-16.1	-1.7	-	-1.8	-2.1	-1.4	-3.1	-
		新車販売台数（万台）	180.1	176.0	-	22.5	43.4	-	13.8	15.4	15.8	15.8	-
		消費者信頼感指数（ポイント）	-11.7	-14.2	-	-30.0	-22.0	-	-	-	-	-	-
		住宅価格（前年比、%）	2.5	7.2	-	8.1	9.6	-	-	-	-	-	-
	政府部門	財政収支（兆ルーブル）	3.0	2.1	-	-1.5	-1.0	-	-0.3	-0.3	0.3	-	-
公的国内債務残高（兆ルーブル）		9.2	10.2	-	11.2	12.4	-	11.4	12.4	13.9	14.7	-	
国際収支	経常収支（10億ドル）	304.6	387.9	-	45.8	38.2	-	-	-	-	-	-	
	貿易収支（10億ドル）	211.1	180.1	-	19.1	21.6	-	4.6	11.3	7.0	-	-	
	輸出（前年比、%）	26.4	-5.3	-	-29.9	-23.9	-	-31.2	-13.4	-24.5	-	-	
	輸入（前年比、%）	6.2	2.4	-	-12.0	-7.6	-	-8.9	-2.0	-7.8	-	-	
	対外債務（対輸出比率、倍）	1.0	1.2	-	1.3	1.3	-	-	-	-	-	-	
賃金情勢・雇用	失業率（原系列、%）	4.8	4.6	-	6.0	6.3	-	6.4	6.3	6.3	6.1	-	
	失業者数（前期差、万人）	-8.2	-0.2	-	206.1	90.0	-	33.3	4.3	-21.7	-33.7	-	
	名目賃金（前年比、%）	10.1	7.0	-	2.9	5.4	-	3.7	6.0	4.5	-	-	
	実質賃金（前年比、%）	7.0	2.7	-	-0.1	1.7	-	0.1	2.2	0.5	-	-	
物価	消費者物価（前年比、%）	2.9	4.5	3.4	3.1	3.5	4.4	3.6	3.7	4.0	4.4	4.9	
	同コア（前年比、%）	2.5	4.2	-	2.9	3.1	-	3.1	3.3	3.6	3.9	-	
	生産者物価（前年比、%）	12.3	2.2	-	-12.1	-1.9	-	-1.6	-0.8	-0.2	1.7	-	
金融	M3（前年比、%）	11.0	8.7	-	14.2	15.9	-	16.2	16.1	16.2	14.1	-	
	銀行貸出（前年比、%）	10.5	10.1	-	11.0	13.4	-	12.6	14.9	15.5	14.5	-	
	政策金利（期末値、%）	7.75	6.25	4.25	4.50	4.25	4.25	4.25	4.25	4.25	4.25	4.25	
	3ヶ月物銀行間金利（期中値、%）	6.8	6.8	4.6	4.7	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1	4.3	4.2	
	10年債流通利回り（期中値、%）	8.0	7.6	6.3	6.1	6.2	6.2	6.2	6.4	6.3	6.2	6.2	
	R T S 指数（期中値、ポイント）	1,172.2	1,326.2	1,233.0	1,185.8	1,223.9	1,245.3	1,258.6	1,178.5	1,066.6	1,282.0	1,387.5	
	100円/ルーブル（期中値）	56.8	59.3	67.6	67.1	69.4	73.0	69.6	71.7	73.8	73.6	71.5	
	ドル/ルーブル（期中値）	62.7	64.7	72.1	72.2	73.6	76.2	73.8	75.7	77.7	76.8	74.2	
	ユーロ/ルーブル（期中値）	74.0	72.4	82.4	79.4	86.1	90.8	87.3	89.4	91.4	90.9	90.2	
	外貨準備高（期末値、10億ドル）	468.5	554.4	-	568.9	583.4	-	594.4	583.4	582.8	582.7	-	

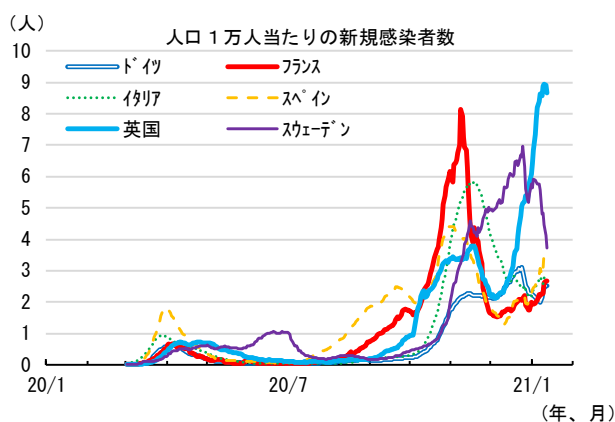
（出所）ロシア連邦統計局（Rosstat）、ロシア連邦中央銀行などの資料から作成。

II. 英国で懸念される「コロナ疲れ」の深刻化

(1) 感染拡大が続く英国

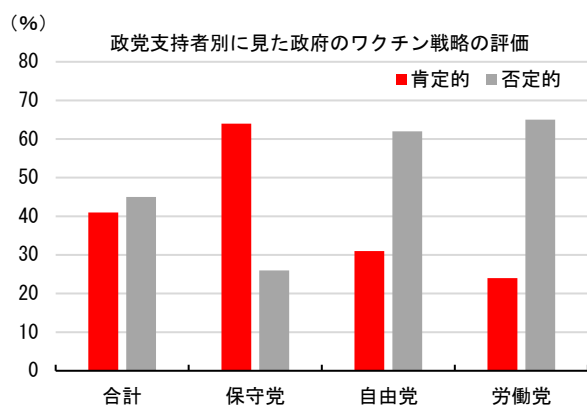
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大が冬期に当たる北半球を中心に続いているが、特に英国では情勢が深刻化している。毒性が強い変異株が発生したこともあり、日当たりの感染者数（図表1）は過去最多を更新し続け、他国よりも圧倒的に多い。年明け1月5日にはイングランドでも三回目の都市封鎖（ロックダウン）が敷かれた。
- ・ 続く8日には首都ロンドンのカーン市長が「重大事態」を宣言、医療崩壊が現実化している。現在、イングランドでは通勤が認められる職種が昨年春の最初のロックダウン時よりも増えており、公共交通機関の利用率も当時よりは高い。そのためハンコック保健相はより厳格な規制を導入する可能性を公共放送BBCとのインタビューで言及した。
- ・ 同時にジョンソン政権はワクチンの供給体制の構築を急いでいる。すでに英国でワクチンの接種を受けた人の数は欧州連合（EU）27ヶ国の合計を上回っているとされる。11日にはイングランドの7ヶ所に大規模なワクチン接種施設を開設、基礎疾患を抱えるなど優先度が高い人々を優先的にワクチンの接種を進めることを目指している。
- ・ 世論調査（図表2）を見ると、政府のワクチン接種戦略を肯定する声は有権者の41%にとどまっている。保守党支持者の大半が政府のワクチン接種戦略を肯定的に評価している反面で、野党支持者（主に若者で、かつワクチン接種の優先対象者から外れている）の大半は政府の戦略を否定的に評価している。
- ・ このように英国では、ワクチンの接種のあり方の評価にも、ブレグジット以来の社会の政治的な対立構造が反映されている。つまりワクチン接種の優先対象から外れた「若者」の多くは、2016年6月の国民投票で欧州連合（EU）への残留に投票した層に重なる。政府にその意図がなくても、ワクチン戦略は世代間対立をさらに促したのかもしれない。

図表1. 英国の感染状況は極めて厳しい



(出所) 世界保健機関 (WHO) 及びユーロスタット

図表2. 野党支持者は政府のワクチン戦略を否定



(注) 1月6～7日調査、サンプル数は1736人
(出所) Yougov

(2) 懸念されるコロナ疲れの深刻化

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大を受けて最前線に立つ医療従事者の「コロナ疲れ」が指摘されて久しいが、それに加えて、社会経済活動が著しく制約されていることに対する一般の人々の「コロナ疲れ」も深刻化している。感染状況がことさら厳しい英国ではなおさらのことだといえよう。
- ・ そうした社会の疲弊に対する危機感を英政府は強めており、それが積極的なワクチン接種戦略につながっていると考えられる。年明け早々にエリザベス女王及びフィリップ王配両陛下がワクチンを接種されたことは、王室に対して好意的な保守派・高齢者層のワクチン接種に一定の好影響を与えると期待される。
- ・ 冒頭で述べているが、首都ロンドンでは行動規制後も公共交通機関の利用率はそれほど低下していない模様である。行動制限が春先に比べると軽微なこともあるし、人々が環境に適用していることもあるのだろう。疫学の専門家などは行動制限の強化を主張しているようだが、一方で政府は一段の規制緩和には慎重なスタンスとされる。
- ・ 感染事情が深刻な欧州各国は、行動制限の強化に取り組んできた。しかし感染の増加が落ち着いても、行動制限の解除後に感染が再び増加するという悪循環に陥っている。この間に人々は疲弊し、社会は不安定な状況に陥っていると考えられる。感染事情がとりわけ深刻な英国の場合、そういった傾向が殊更に強いといえよう。
- ・ こうした状況の下で行動規制を徒に強めれば、社会不安の爆発につながる恐れがある。それに景気がさらに悪化することは免れない。英政府が行動制限の強化に慎重なのは当然といえる。こうした当局のジレンマは、日本を含めた世界各国に通じるものでもある。感染対策と社会・経済運営のバランスをどうとるか、各国の模索が続く。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。